

第5章 地域の行動

第1節 環境市民会議の取組

地域の環境を保全し、回復させるには、市の環境施策を推進するとともに、市民・事業者の自発的な環境保全活動が不可欠となってきます。

ここでは、環境市民会議が各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取組を報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。

環境保全の取組は、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取組の推進力となるのが環境市民会議です。地区内の町会・自治会や事業者、あるいは各種団体との連携を図りながら活動しています。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理し、その解決に向けた主な取組などを「地域の行動」として示しています。

この地域の行動は、環境市民会議によって策定されたものです。

6地区の位置図



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

J R八王子駅・J R西八王子駅・京王八王子駅の周辺地域の中央地区は、6地区の中で最も緑被率が少ない地区です。道路のごみは少なくなりましたが、植え込みには、たばこの空き箱・吸い殻・ペットボトル・空き缶等が目立ちます。駅でのマナーアップキャンペーン、各町会・地域のクリーン活動にも積極的に参加し、きれいなまちをめざします。

浅川を教材とした小学生への川の学習支援を通じ、川の状況・生き物・植物・ごみの状況等を知ってもらい、外来種の危険やごみのポイ捨てにも注意を促しています。

定期的に河川の調査・観察を実施しています。各橋の付近を中心にごみが散乱していますが、魚類・野鳥も多く確認され、水質は良好と言えます。

大気汚染測定では、安定し良好な結果のため、調査箇所を減らしましたが、環境基準以下です。

■ 中央地区の主な取組

1 地球温暖化防止のための省エネ生活の推進

みどりのカーテン普及のため、ゴーヤの苗を500個作りました。エコひろばで配布したり、市役所で栽培してもらいました。

地球温暖化防止活動推進員として家庭グループの打ち合わせを4回開催し、IPCCの報告の確認や、政府がゼロカーボンに向けて家庭に課す二酸化炭素削減率の目標を確認し、具体的な活動を検討しました。

10月のNPOフェスティバルでは、二酸化炭素の排出量が少ないエネルギーへのシフトを市民に訴えるため、再生可能エネルギーのソーラーパネルやバッテリーを紹介したほか、環境省のゼロカーボンアクション30のパネルを展示しました。



ゴーヤの苗作り

2 ごみの分別、徹底とリサイクルの推進

イベントや市民センターまつりがすべて中止となりましたが、12月に開催されたエコプロダクツ2021に参加し、プラスチック問題の対応策等の取組や、食べられる容器、植物性のストローなどを見学しました。



NPOフェスティバル苗作り

3 河川の清掃活動

4月に南北浅川合流地から萩原橋までの両岸で清掃活動を実施し、13名が参加しました。また、11月に浅川橋と中野橋付近に加え浅川橋から暁橋の両岸で清掃活動を実施し、



エコプロダクツ2021

12名が参加しました。可燃ごみ、不燃ごみ、空きビン、空き缶、廃棄自転車、鉄残材などを回収しましたが、川底の石や岩、草に絡まったプラスチックごみがまだまだあります。

4 河川の巡回観察・調査活動の推進

河川巡回は14回、課題別巡回は13回実施し、延べ27名が参加しました（浅川10回、南浅川9回、山田川4回、川口川4回）。野草、野鳥、ごみの観察・監視は継続が必要です。

水質と水生生物の調査を調査地に合わせて項目を整理して、水生生物は11回、水質は7回実施し、延べ32名が参加しました。水質は「きれいな水」判定でした。希少生物を守るために外来生物の根本的対応の必要性を感じています。

5 環境教育・環境学習などの推進

地区内小学校5校と地区外小学校1校に対して、体験学習と課題別学習を8回支援しました。当地区の支援者が延べ38名参加したほか、他地区から延べ29名の方にご協力いただき、実施しました。今後に向けて支援者の増員が必要です。

川の学習サポーター養成講座の支援活動は計6回、延べ15名が積極的に参加し、役割を果たすことができました。

6 まちのみどりの保全

第四小学校の花植え活動の支援を実施したほか、校庭の樹木に名札を付ける準備を進めました。また、環境グリーンマップに最新の状況を調査した結果を反映しました。

7 大気汚染測定

大気汚染測定運動東京連絡会主催の全都一斉測定運動に参加し、6月と12月に二酸化窒素濃度の定点調査を実施しました。例年の測定結果が環境基準以下に安定しているため、令和3年度からは居住区域3か所に絞り確認をしました。

■ 特色のある取組

自然体験講座としてまちなかの歴史と自然を紹介する「まちなかウォッチング」を10月に開催し、22名が参加しました。



11月実施 中野橋西側



浅川右岸平岡町排水樋管出口部流れ
流量測定中



第四小学校の川の体験学習



まちなかウォッチングの様子

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

地区の東エリアは住宅地が広がっており、中には保存緑地として昔からの緑が保存されている箇所も見られます。西エリアは南・北加住丘陵に代表される豊かな緑が残っていますが、手入れが行われていない樹林地も存在しています。地区の中央には谷地川が流れ、上流では昔からの自然護岸が残っています。上流での水質・水量を改善していく必要があります。

また、中央エリアは国道16号・20号、16号バイパス、新滝山街道のほか、中央自動車道八王子ICも近く、交通の要衝となっています。このことから、大気汚染の状況にも注視しています。近年は、濃度が減少傾向にありますが、16号バイパスの一部でまだ数値が高い地点が見られます。

その他にも、人目に付きにくい場所へのごみの不法投棄対策や環境保全意識の啓発、地区の貴重な自然・文化・歴史を知る機会の提供など、さまざまな分野での対応を行っていく必要があります。

■ 北部地区の主な取組

1 谷地川の調査と清掃活動

谷地川の7地点で隔月の水質調査（COD、水温、電気伝導度、溶存酸素、生物調査等の定点観測）を実施したほか、水量測定を3回実施しました。

また、6月に実施された全国一斉水質調査に継続して参加しました。



谷地川調査

2 緑地保全活動

地区内の環境活動団体と協働して都の緑地保全地域（4か所）、市の緑地（3か所）等の保全・整備活動を実施しました。感染症対策のため活動回数を制限しましたが、充実した活動を心がけました。

また、令和3年度冬季に大谷緑地保全地域で二巡目となる皆伐・萌芽更新の取組を実施しました。一変した林床の植生変化を観察しながら、保全活動を行いました。



緑地保全活動

3 環境教育・環境学習などの推進

小宮小の4年生と、宇津木台小の全学年を対象に、多摩川で自然を学ぶ授業の支援を行いました。実施後には環境学習活動をまとめたパネルを作成しました。

また、市内の他団体と協働して、大和田小、第八小、代々木山谷小（渋谷区）を対象に、里山林の意義と活用の仕方を学ぶ活動を実施し、楽しみながら自然を体験し



環境教育

学ぶ場を提供しました。

東京グリーンキャンパスプログラムに参加し、東京都立大学の学生を対象に、緑地保全の基本や保全活動の多様性を紹介しました。また、東京グリーンシップアクションでは、緑地保全の体験を通して、環境問題や緑の保全の重要性を理解してもらうプログラムを実施しました。

4 大気汚染測定

都内一斉調査日に、二酸化窒素濃度の定点調査を年二回（6月、12月）、平成16年から毎年実施しています。令和3年度より「大気汚染測定運動東京連絡会」に資材製作・濃度計量を委託して、実施しました。担当者9名で、47地点（うち17地点は平成16年当初から測定）を測定しました。各調査地点の濃度はおおむね減少傾向にありますが、幹線道路沿いでは高い数値も観測されているため、今後も定点測定を継続していきます。

また、八王子大気汚染測定ネット編集の「2020年度版わたしたちの大気汚染測定報告」に「北部地区環境市民会議の大気汚染測定2004年～2020年」を寄稿しました。

5 地域との協働活動の推進

環境市民会議を知ってもらうため、石川・加住市民センターで市民会議活動パネル展示と入会勧誘を行いました。

また、6地区協働活動委員会で検討していた市民会議の知名度アップ活動の一環として、当地区の活動紹介と入会勧誘のための動画を作成し、エコひろばのホームページに掲載しました。



市民センターでのパネル展示

■ 特色のある取組

(1) 自然体験講座の実施

自然と歴史の資産である滝山城跡と高月の田園風景を紹介する自然体験講座を実施しました。秋季の滝山城跡と加住丘陵散策では、尾根道経由で将監谷戸まで足を伸ばしました。春季の高月田園散策は、早春の田園風景と秋川の堤より自然を親しむことができました。



自然体験講座（高月田園散歩）

(2) アメリカオニアザミの啓蒙と駆除

生態系被害防止外来種のアメリカオニアザミは鋭いトゲがあり危険なため、地域での繁殖を抑えるために、地域内での生育場所調査を行い、作成した注意喚起のチラシを町会や敷地内に生息している住宅・事業所に配布し、駆除を呼びかけました。さらに、行政を通して土地管理者に除去していただく働きかけを実施しました。



アメリカオニアザミ

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西部地区は、西側から市街地に向かっていくつかの丘陵と北浅川や川口川が流れ、自然に恵まれた地域と言えます。これらの自然を守るため、長年にわたり里山保全活動を行った結果、さまざまな生物が戻りつつあります。

当地区では「八王子市みどりの基本計画」に則り、八王子市景観100選に選ばれた「上川の里特別緑地保全地区」を保全活動や環境教育の場として活用しています。この里山は、四季折々の花が楽しめ、6月にはホタルが飛び交い、秋には棚田が黄金に輝き癒やされる場所です。

■ 西部地区の主な取組

1 稲作体験授業支援

棚田がある上川の里では、上川口小学校が食育や地域に根ざした教育の一環として位置づけている稲作体験授業を支援しています。支援は令和3年度で5年目になります。PTAやNPOなどと協力し、代かき、田植え、稲刈り、ハザかけ、脱穀、精米を経て、学校給食として活用されています。



稲作体験授業支援

2 親子里山探検隊 i n 上川の里

年2回、春と夏に開催される親子里山探検隊は、毎年応募者が多く人気の講座です。

春にはシュンラン、キンランを始め、モミジイチゴ、ウグイスカグラなど多くの植物が観察できます。両生類では、春一番にヤマアカガエル、ニホンアカガエルがピオトープ（命が生まれる場所）に産卵し始めます。

夏は、ホトケドジョウ、アカハライモリなどが観察できるほか、コナラには昆虫の王様カブトムシやミヤマクワガタを観る事ができます。



親子里山探検隊 i n 上川の里

3 環境パネル展

1月に開催された環境パネル展では、自然体験講座（歴史を巡る）、環境教育支援（川口小学校）、清掃活動（あらい公園）、水質調査（上川の里）、稲作体験授業支援（上川口小学校）などを展示しました。



環境パネル展（史跡巡り）

4 河川・湧水の水質調査

川の水質調査は、毎年6月に行われる水環境の全国一斉調査を含む年2回、13地点で測定しており、令和3年度も継続しました。

湧水の調査も、年1回、梅雨時に行いました。

5 大気汚染測定

高尾街道、陣馬街道の主要道路付近を中心とした15地点で、年2回大気測定を行いました。

なお、測定値は基準値内に収まっています。

6 環境教育支援事業の実施

小学校の総合学習の一部として行われる、八王子の自然を体験する「川の学習」を支援しています。令和3年度は、天候不順で中止になった学校もありましたが、地区内3校、地区外7校に対し合計17回支援しました。

また、魚・水生生物・植物・石・野鳥といった、児童が興味を持ったテーマに特化して学習する課題別学習を7校で実施しました。

7 自然体験講座

西部地区の古道の道標を基に“歴史を巡る”シリーズで自然体験講座を企画・実施し、参加者に地区の緑と歴史跡を紹介しています。

令和3年度は11月に大楽寺町切通しから恩方に向かう「紅葉の案下路を歩く」を実施し、17名の参加がありました。また、3月に「元八王子の歴史を訪ねる」を実施し、奈良・平安時代の「由比の牧」や、鎌倉時代に由来する「梶原谷」などを案内しました。



自然体験講座

8 公園アドプト制度

令和2年度から公園課の公園アドプト制度に登録し、あらい公園の清掃活動に取り組んでいます。

9 川のクリーン活動

大沢川と城山川のクリーン活動を年2回行っていますが、毎回回収するごみの量に変化はありません。川の景観の維持のため、継続して取り組んでいきます。

■ 特色のある取組

式分方小学校の4年生を対象に行われる環境教育において、生ごみの減量や、たい肥として生ごみを再利用することなどを通じて、ごみ減量の意識を向上させるための学習支援を行っています。

ダンボールコンポスト12個を活用したたい肥作りを行い、児童の作業後にメンテナンスを担当しました。ダンボールコンポスト学習は、市内で式分方小学校一校だけです。

支援は9年目となりました。作られたたい肥は、学校での野菜作りや花壇作りに活用されています。

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山は年間300万人が訪れる、豊かな自然や史跡などの宝庫です。当地区では、自然観察会や環境パトロールを行い、植生・生き物・景観・周辺の案内板などの変化を記録するとともに、保全関係者と情報交換の機会をつくり、意義ある調査活動をめざしています。

湯殿川では、水質が改善されたことにより多様な水生生物が復活しており、特に蛍の生息域は年々広がっています。しかし、粗大ごみやプラスチックごみが多くみられるため、地域と協力して川の清掃に取り組んでいます。南浅川は、市民にとって親しめる水辺環境を整えるよう、市に改善を提案しています。また、小仏川下流と南浅川では瀬切れが頻繁に観察されているため、調査を開始しています。

いちよう祭りでの高校生を中心とした学生へのごみ分別指導、市民センターまつりの参加等を通し、地域と密着した活動に取り組んでいます。

■ 西南部地区の主な取組

1 高尾山の環境保全活動

高尾山の多様な動植物や固有の生態系の変化を記録するため、観察やパトロールを4回実施しました。高尾山レンジャーと連携し、情報共有が図られました。

令和元年に発生した台風19号による高尾山周辺の影響調査では、被害の修復が進んでいることを確認しました。一度は消えかかった小仏川の野草も、回復の兆しが見え、少しずつ元の状態へ戻りつつあります。

2 地域の宝の掘り起し

自然体験講座「初沢山周辺の歴史と自然を訪ねて」を10月に開催し、18名が参加しました。高尾駅南口をスタートし、高楽寺・御嶽社・みころも霊堂・官公銅像・天神社・初沢山城跡・高乗寺・浅川地下壕などの建造物や史跡を巡り、その歴史・由来などを紹介しました。山道にある栗林や野草の保護活動、山頂のナラ枯れなど環境の変化、新たな史跡（まむし地蔵）の発見などの説明も行いました。



高楽寺の枝垂れ桜前に入る

3 里山の保全活動

自然体験講座「里山探検隊」を9月に開催し、18名が参加しました。会場の館町緑地保全地域は、西南部地区の里山活動の拠点でもあります。虫を探しながらの自然観察や、ホウノキの葉っぱを用いた飛行機作りなどを通して、里山の楽しさを伝えました。



ホウノキの葉っぱで飛行機を作る親子

4 親しみのある水辺環境の構築

(1) 河川の水質調査（全国一斉水質調査）

西南部地区で一級河川及びその支流21か所を指定し、毎年測定しています。CODの平均値

は0.8と若干上がりましたが、平常値でした。

(2) 湯殿川の清掃活動

当地区独自の清掃活動を10月に実施し、9名が参加しました。川の中にはプラスチック類のごみが多く、金属板などの大型ごみも数点ありました。これらのごみの投棄防止のため、地元小学生が描いた啓発ポスターの掲示にも取り組んでいます。



湯殿川の清掃活動

(3) 湯殿川・南浅川の水辺環境調査

湯殿川の上流端～白旗橋まで約1か月間蛍の出現調査をしました。調査区間全域に出現し、6月2日から10日頃までがピークとなりました。横山南市民センターなど4、5か所に蛍鑑賞の案内ポスターの掲示を行い、地域に紹介しました。

南浅川では水辺環境調査を行い、7月から3月まで、古道橋～五月橋間の瀬切れの発生状況を観察・記録しました。

5 生活環境保全

(1) 大気汚染NO₂調査

年2回、6月と12月に実施しました。観測地点を34か所から25か所に再編成し、計測システムの変更を行いました。6月の測定値は低め、12月は少し高めでしたが、影響のない範囲の数値でした。

(2) 不法投棄パトロール

3月に殿入中央公園周辺（公園内、埋立地、峠奥通路）で実施し、14名が参加しました。埋立地では大型ごみが多く見付き、隣接する館町緑地内では昔の洗濯機など古いごみを収集しました。広域の不法投棄ごみを、管理団体と協力して一体的に除去できました。

6 環境教育支援

川の学習支援校は、緑が丘小、梶田小、東浅川小、浅川小、横山第二小の5校でした。4年生を対象に計13回支援を行い、支援者延べ83名が参加しました。また、東浅川小5年生では、南浅川の水質、川のしくみや治水など地域特性に応じた環境を学びました。浅川小1年生は、夏と冬の2回、浅川中の学校林「栗山」散策で、植物や昆虫類などの自然とのふれあいを通じ、自然の大切さを学びました。

今後も支援校が増えることを想定し、支援内容や支援体制の充実を図っています。



川の様子や生き物を記録する

7 地域の環境活動との連携

いちょう祭りで例年ごみ集積所を担当している都立八王子桑志高校で事前説明会を開き、市のごみの現状といちょう祭りのごみ分別を説明しました。また、当日は会場の清掃を担当し、可燃ごみ1.6トンを回収しました。



1年生を対象にした事前説明会

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

近年の宅地開発の影響でみどりは減少傾向にあります。さらに、雑木林ではナラ枯れの被害が広範囲に見られており、被害は深刻です。

河川の状況は、浅川・湯殿川・兵衛川・山田川・寺田川の14地点で行った水質調査によると、COD値2~3を示しています。しかし、湯殿川下田橋周辺ではごみのポイ捨てが多いため、ごみ問題に市民、事業者、行政が一体となって取組を進める必要があります。

16号バイパスは交通量が多いため、年2回の大気汚染測定調査(地区内9か所)を継続しながら、大気の状態を注視していく必要があります。

地域との連携で街や河川の美化に努めるとともに、啓発活動にも力を入れていきます。

■ 東南部地区の主な取組

1 駅周辺のきれいさ評価や清掃活動

毎月第4月曜日に、北野駅周辺と湯殿川(下田橋)の清掃を行いました。下田橋周辺のフェンスには、由井第三小の児童が描いたポイ捨て禁止のポスターを掲示して啓発活動も行いました。しかし、刃物が河川に捨ててあるなどの危険な行為もあり、マナーの向上が求められます。また、10月には、兵衛一丁目町会と連携して、兵衛川みなみ野大橋下の清掃を行いました。

9月と3月の年2回、JR片倉駅・八王子みなみ野駅・長沼駅・北野駅・京王片倉駅・山田駅周辺を清掃し、ごみの種類と数を集計しました。ごみの量は減少傾向にあったものの、新型コロナウイルスの影響でマスクのごみが目立ちました。また、たばこの吸い殻は増加傾向にあります。11月には市、JT(日本たばこ産業(株))と連携して喫煙マナーキャンペーンを実施しました。

公園アドプト制度を活用し、毎月第3土曜日に大塚山公園の清掃を行いました。大塚山は多摩丘陵の最高峰にあたり、周囲を一望できる場所です。絹の道に隣接しており、住民のラジオ体操の場所として、また散歩コースとしても活用されています。

2 河川の水質調査と大気汚染状況調査

6月の全国一斉水質調査で浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の調査を行いました。COD値は雨のためか、2~3でした。河川周辺にはレジ袋、缶、ペットボトルなどのポイ捨てごみが見られました。特に、植え込みの中に捨てられていることがあるので、清掃とともに啓発活動も続ける必要があります。

大気汚染測定は6月と12月に9か所で行いました。汚染状況には大きな変化はありませんが、16号バイパスは交通量が増加しているため、今後も注視していく必要があります。

3 自然エネルギーや節電・省エネの出前講座

8月に、クールセンター八王子と共催でソーラークッキングを実施しました。夏休みの恒例の講座で、太陽光を集める装置を工作し、どれくらいのエネルギーができるか、親子10組が実験しました。天候と時間の影響で温度の上昇が確認できた程度でしたが、災害や節電などで電気が使用で

きない状況にも使用できる身近な自然エネルギーの一つとして、伝えることができました。

4 地域の自然・歴史の調査と勉強会と自然体験講座

11月に自然体験講座「絹の道を訪ねて」を実施し、JR横浜線片倉駅から、慈眼寺・いしばし入り緑地・大塚山公園・絹の道資料館・諏訪神社・永泉寺・小泉屋敷を巡り、歴史もみどりも楽しめる講座となりました。

12月には、勉強会として生ごみ処理施設の見学と長池公園の散策をしました。生ごみがたい肥になる工程を見学し、食の循環や食品ロスについて学びました。

2月には自然体験講座「湯殿川探鳥会」を片倉城跡公園から湯殿川の窯土橋までのコースで行いました。八王子・日野カワセミ会の協力の下、カワセミ、オオバン、オナガなどの野鳥を観察することができました。



「湯殿川探鳥会」の様子



「絹の道を訪ねて」の様子

5 環境教育学校支援

由井第三小学校の4年生を対象に、6月と9月に川の学習を実施しました。9月は屋外活動が雨で中止となり、室内での学習となりました。川の状態や水の流れ、深さ、濁り具合、周辺の植物や野鳥、ごみの状態などを調べたり、川に棲む水生生物を同定することで川のきれいさを調べるなど、身近な自然を学ぶことができました。

■ 特色のある取組

竹林の整備を6月と12月に行いました。市民の協力もあり、荒廃していた竹林が健全な状態になりつつありますが、竹の成長が早いため、年2回の作業では追いつかない状況です。竹林は通行人からみられる場所にあるため、チラシや横断幕などによる広報活動の実施について検討しています。また、竹を使用した工作や伐採竹のチップ化など、竹の有効利用も模索していきます。

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部（旧由木村）地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、南側は多摩ニュータウンとして、それぞれにみどりの景観が形成されています。昭和57年に「南陽台の自然を守る会（現：多摩丘陵の自然を守る会）」が発足して以来、およそ40年に渡り、多くの住民の努力によって、多摩ニュータウン・由木の里山保全活動が続けられてきました。清浄な空気や水の供給源である、みどり連なる多摩丘陵の里山を維持することで、人の生活と多様な生き物の生活環境を守ることができます。環境省が指定する重要里地里山500のうち2か所が当地区にあり（都内では8か所）、別所にある長池公園（面積9.8ha）、堀之内にある堀之内寺沢里山公園（面積5.2ha）が整備されています。

また、同じく堀之内にある宮嶽谷戸は、都の自然保護条例により里山保全地域に指定されており、みどりの保全活動が進められています。

■ 東部地区の主な取組

1 里山保全活動の推進

当地区では、長池公園や堀之内里山保全地域などで、里山・谷戸の保全活動を実施しています。

長池公園では、長池里山クラブが主体となり毎月第2土曜日を中心に月例行事を実施しており、当地区も協力しました。主な活動は、田植え（6月）、稲刈り（10月）、収穫祭での餅つき、門松作り（12月）、正月のどんど焼き、炭焼き（2月）、椎茸となめこの駒打ち（3月）です。

堀之内里山保全地域では、里山農業クラブ・ユギ里山保全チーム・多摩丘陵の自然を守る会で構成される堀之内里山管理協議会が、耕作が放棄されて荒廃した谷戸源頭部のアズマネザサやアオナリヒラタケの伐採を行い、里山の保全整備を推進しています。里山農業クラブによる第21回「田んぼの学校」に、年間を通して協力しました。宮嶽谷戸の溜池である宮嶽池の整備構想を審議する会にも参加し、環境学習の拠点とするための提案をしました。

また、自然体験講座を開催しており、令和3年度は4月に中山・鎌水において、多摩丘陵の豊かな自然を知ってもらうため、多様な樹木や草花を学習しながら歩く自然観察会を開催しました。



門松



稲架かけ

2 花壇の維持・管理

当地区では、南大沢駅前に設置された大型花壇22基の維持・管理を支援しています。これは、八王子市の「アドプト制度」を活用したボランティア活動として、南大沢みどりのサポーターの会

が継続的に実施しているものです。定例活動は毎月第1金曜日と第3火曜日の午前中ですが、その他の日にも散水・管理を行っています。

令和3年度は、恒例の「コンテナガーデンコンテスト」が中止となりました。

3 環境教育支援事業の推進

継続して支援している川の学習を、地区内の由木東小及び柏木小で10月に実施しました。

また、秋葉台小5年生の田んぼの学習を5月から11月に実施し、5月・6月は、長池公園の田んぼからオンラインで教室と結び実施しました。さらに、3年生のカイコ・シルクに関する学習も支援しました。

4 大気汚染測定と水質調査

大気汚染測定と河川の水質調査を実施しています。

大気汚染測定については、毎年6月と12月に大気汚染測定運動東京連絡会の主催する全都一斉測定に参加し、令和3年度は2kmメッシュにあたる6か所の居住区域で実施しました。

水質調査については、6月の「水環境の全国一斉調査」に参加し、大栗川・大田川などの計8か所で河川の水質(COD)を調査しました。橋の上などから採水する際は、自作の表層水採水具を使用し、水深の浅い箇所でも底泥が混入することなく採水することができました。

新たな取組として、糞便性大腸菌群数と大腸菌数の定点測定を大栗川の数か所で実施しました。

5 豊かな自然環境への市民の親しみ向上

西緑地科学クラブとの共催でイベントを開催しました。長池公園自然館では、7月に里山の池の小さな生物観察、8月に初音笛作り、11月に竹とんぼづくりを、生涯学習センター南大沢では、3月に由木の植物をテーマに講座を開催し、市民が里山の豊かさへ関心をもつ機会を提供しました。

また、これまでに刊行した由木地区自然観察路マップ・樹木マップ・みどりの道マップに加え、写真絵葉書5種(クチナシグサ、フデリンドウ、タマノカンアオイ、キンラン、トキリマメ)を作成し、各種イベントで配布しました。

■ 特色のある取組

当地区のウェブサイトを開設し、由木地区自然観察路マップ・樹木マップ・みどりの道マップのほか、由木地区里山の植物誌や、日頃の活動の成果を掲載しているほか、市民活動支援センターが運営する「はちコミねっと」にも当地区の情報を掲載しています。

また、定例会では学習会を開催しました。4月に「宮嶽池の活用に向けた整備方針の作成について」、5月・6月に「2050年までのCO₂排出ゼロ宣言」、7月に「環境関連ビデオ(環境パネル展、ジイジ達のオニ退治、都立長沼公園の散策)」、8月に「由木地区の探鳥スポットを歩こう」、9月に「由木地区の植物：里地里山を学ぶ(生物の進化と分類・系統)」、10月に「ゲンジボタルの生態について改めて考える：陸生ホタル研の調査結果から」、11月に「水域の環境基準における大腸菌群数をめぐって」、12月に「ソーラー発電とEV」、2月に「生物多様性の保全からみたウグイの放流」をテーマに行い、他地区にも参加を呼びかけ環境問題の情報共有に役立てました。

地域の行動評価一覧

令和3年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対する環境推進会議での意見を掲載しています。

<中央地区環境市民会議での総括評価>

一般向けに対面での情報提供、啓発活動等のできない面もあったが、市民センター・学童保育所での出前講座は予定通り実施した。河川の清掃活動・巡回観察調査活動・小学校向けの川の学習支援・大気汚染測定・自然観察会等は予定通り実施した。市街地に位置しているため、多方面での活動が実施できた。

<環境推進会議の意見>

みどりのカーテンの普及推進のためのゴーヤ作りや、地球温暖化防止活動推進員としての活動など、地球温暖化防止のための活動を展開している。省エネ教室などを町会・自治会に向けて実施することにより、運動が広がるので素晴らしい取組である。河川の巡回観察や調査、環境グリーンマップの調査見直しなど、継続的に着実な活動を行っている。また、その活動をSNSで発信しており、引き続き意欲的に活動を行ってほしい。

<北部地区環境市民会議での総括評価>

令和2年度に引き続きコロナ禍での活動を余儀なくせざるを得ない事態が続いたが、各項目ともコロナ禍での対処方法も学習ができ成果をあげることはできた。

<環境推進会議の意見>

地域の団体と協働した緑地保全活動を継続的に行い、市の魅力であるみどりを啓発し活用して小学生への環境学習の実施や、企業や学生の緑地保全活動の支援などを積極的に行っている。また、外来種「アメリカオニアザミ」の駆除のためにチラシを作成し啓発に取り組んでいる。今後も地域の環境保全活動を行うとともに、さらに地域の魅力あるみどりを市民へ発信してほしい。

<西部地区環境市民会議での総括評価>

- ・新型コロナウイルス感染症対策により一部制約があったため活動に支障が多少生じた（環境フェスティバル、自然体験講座など）が、年間の活動スケジュールはおおむね実施することができた。
- ・川の学習には、天候による中止校もあったが、各地区の環境市民会議で協力し合い支援体制がとれることとなった。

<環境推進会議の意見>

町会・自治会と連携して行う川のクリーン活動は、地域への取組が素晴らしい。9年間継続しているごみ減量の意識を向上させるためダンボールコンポストを活用した環境教育支援は、児童にとってとても良い環境教育であると高く評価できる。市が保全を進めている里山である「上川の里」を活用して、稲作体験や親子里山体験を開催するとともに、保全活動にも取り組んでいる。今後も「上川の里」の活用を進めてほしい。

<西南部地区環境市民会議での総括評価>

年間活動計画の大半を実施することができた。高尾山の環境保全では、高尾山レンジャーとの情報交換会も定着し、情報の共有化が深まっている。生活環境保全は地味な活動だが南浅川の瀬切れ状況調査が行われ、年間を通して川の様子を知ることができた。今後はデータに写真を添付するという一歩進んだ提案が出されてきている。

環境教育支援では、東浅川小で行われた川の学習は「川の治水」をテーマにするなどグレードアップしたが、その支援にも対処することができた。

一方、全体で取り組んだ環境フェスティバルも多くの会員参加で実施がなかった。いちょう祭りでは直前に行われた桑志高校での「ごみの分別指導事前説明会」は、表には出てこない隠れた活動だが、1年生全員が講堂に集まった説明会は壮観でもあった。環境教育の面からも西南部地区には欠かせない「出前講座」になってきている。

<環境推進会議の意見>

高尾山レンジャーと連携した環境パトロールや行政との意見交換を行うなど活動の実効性を高めており素晴らしい取組である。いちょう祭りでのごみ分別指導など、地域の町会・自治会や他の団体と連携した活動を行うなど、地域に根ざした活動を行うことができている。また、環境教育支援事業にも積極的に支援を行っている。今後も地域の町会・自治会や他の団体と連携した活動を進め、活発な活動を継続してほしい。

<東南部地区環境市民会議での総括評価>

コロナ禍で町会と連携した清掃は中止となったが、毎月の清掃やきれいさ評価、水質調査、大気汚染調査は定期的に実施した。竹林整備は一般市民の参加を得て活発に実施できた。

<環境推進会議の意見>

町会と連携した清掃活動や、市民参加による竹林整備など、地域などに活動が広がっていることは、高く評価できる。また、東南部地区内6駅周辺のきれいさ評価を継続して行っており、ポイ捨てされるごみの種類を把握し、こうした調査結果を発信している。SNSを活用した情報発信を継続していくことで、さらに多くの市民への意識啓発につなげてほしい。

<東部地区環境市民会議での総括評価>

コロナ禍により、日常の活動に制限がかかる中情報共有の場である例会を毎月開催できたことに感謝している。さらに、令和2年度まで各月実施の学習会を、原則毎月実施に変更し、9回開催できたことは評価できると自負している。

<環境推進会議の意見>

長池公園などでの里山保全活動や、南大沢駅前の大型花壇の維持管理などを、地域のさまざまな団体と連携して活動しており、良好な環境づくりへの貢献度は高い。また、長池公園や地域小学校で行うカイコ・シルク体験などの学習支援は、「桑都八王子」の伝統を継承していく観点からも良い取組である。ウェブサイトを活用した情報の発信に積極的に取り組み、動画での情報発信も充実していることは、広く市民に向けた活動であり、市民の意識向上につながり、素晴らしい取組である。引き続き活発な活動を進めてほしい。

第2節 環境保全団体等の活動紹介

■日本山岳会 高尾の森づくりの会

1 概要

「高尾の森づくりの会」は公益社団法人「日本山岳会」が母体となって平成13年1月に発足した森林ボランティア団体で、令和3年に20周年を迎えました。

会の目標は、かつて存在していた多様で豊かな森林を復元することです。植物種が多彩な林相の森林、また動物相が豊かで景観・活力に優れ、森からの恵みも活用できる森林をめざし、活動指針として50年間のビジョンを定めた長期計画を作成しています。

活動エリアは裏高尾町にある小下沢国有林及び板当国有林で、広葉樹と針葉樹が混在する豊かな森の復元をめざし、年間を通じて整備を行っています。また、隣接する小下沢都有林でも都より森づくり活動の承認を得て毎月作業を行っています。



小下沢ベースで20周年記念撮影

2 令和3年度の主な活動実績

(1) 定例作業

小下沢国有林「ふれあいの森」の協定を締結し、第5期の作業を開始しました。コロナ禍で定例作業が6回中止となりましたが、間伐・ツル切り・作業道の整備等を実施しました。



定例作業にて間伐

(2) センサーカメラによる動物のモニタリング

平成22年からモニタリング調査活動を始めて11年が経過しました。調査データや映像は林野庁、東京都、市郷土資料館、高尾599ミュージアム、ビジターセンター等の15関係部門に報告し、必要に応じて映像を提供しています。

(3) 森林活動の大切さを伝える活動

「八王子環境フェスティバル」や「高尾599ミュージアム」のイベント等に出展し、高尾での森林整備活動の紹介に加えて、動物カメラ映像の上映、間伐材を利用した木工作品の展示や木製パズルで遊ぶコーナーを設けました。



動物カメラ映像の上映

(4) 市内の公園等の整備活動への協力

上柚木公園にて9回、公園の雑木林や竹林の整備、下刈等を行いました。また、高尾一丁平でも6月と10月に下刈、倒木処理、丸太柵の補修等の作業に協力しました。

参考：高尾の森づくりの会のホームページ <http://JACtakao.net>

■池の沢に蛍を増やす会

1 概要

平成12年2月、絶滅したと思われていた蛍が池の沢で生息していることが分かり、貴重な蛍を守るために会を発足しました。活動場所である池の沢は、都の館町緑地保全地域と市の殿入中央公園からなる面積約50,000m²の土地です。多摩丘陵の西側に位置するこの場所には、北向きに開けた谷戸があり、低地には田んぼやビオトープ・休耕田が、丘陵部には落葉広葉樹林、杉林、真竹林があります。



活動場所 池の沢

蛍をはじめとする多様な生きものを育む里山を作るため、下草刈り・田んぼ作り等の定例活動や、蛍観察会等のイベント等を開催しています。

2 令和3年度の主な活動実績

(1) 定例活動

月4回の定例活動では、年度計画に基づいて周りの樹木の生長の妨げとなる下草刈りや、枯れた木や倒れる恐れのある木等の伐採、田んぼづくりや散策路の整備等を行っています。



木の伐採



田植え

(2) イベントの開催

蛍が生息する池の沢の自然のすばらしさを多くの人に知ってもらうため、蛍観察会等のイベントを開催しています。また、西南部地区環境市民会議と共催で自然体験講座を開催しています。



蛍観察会の開催



自然体験講座の開催